

2015年9月30日

横浜市立青葉台中学校 学校だより 自由と規律 -10月号

Tel 983-1062 Fax 983-7103

E-mail: y2aobada@edu.city.yokohama.jp

発行者: 青葉台中学校 校長 脇山 幸之

2学期。9月は体育祭にはじまり、10月、文化発表会、合唱コンクール、11月マラソン大会など目白押しで、皆さんが準備してきている（これからもさらに準備に励んで磨きをかけてください）盛り上がるの行事が続きます。これらは、皆さんが体育祭で盛り上がり、十分集中した体制で、次の行事も、待ちに待っているものです。しっかりと、さらに結集して、さらに集中して取り組んでいただきたい。クラスごとに目標を新たに認識し、全員で結集して、見つかった課題を解決し進めていきましょう。その中でも、重要なのは体調管理です。まず規則正しい生活を送り、（夏休みとも一緒です）しっかりと日々の生活を行ってください。そして更に更に熱く燃えましょう。大きな行事にのめり込むこともとても必要なことではありますが、先月も書きましたが、2学期という季節は、学業、部活、読書などこの気候で行うのに、どれも最適な時期です。肅々（しゅくしゅく）と、いつもの合言葉：「ケジメと集中」で進めていきましょう。

オーストラリア訪問その2 を記載します。先月、そこで教育方法が「外国人が通常意見をどんどん述べるスタイルを持っているということ築く原点を見た気がしました。」と書きました。

そこには、どの授業においても、一方通行の教えるタイプの授業はなかった。個人に意見を発表させてみんなが授業に参加しなければならないスタイルの授業。世界に出て行かなければならない時代に、自分のことを発表し、皆と意志疎通していく。自然と「自分がないと存在できない、自分のアイデンティティを意識せざるを得ない授業」。とてもそれが当たり前になっている。相手のことを理解し、自分の考えとそれらをうまく組み合わせるために考えざるを得ない。日常からそれが当たり前だと、自分の考えを持ち、それをしっかりと人に伝えることができ、人の言うことを聞く耳をもつ。日常の授業からそれらを仕掛けていたのが、オーストラリアの授業でした。このような力を身に着ける。我々も目指すべき姿ではないでしょうか？生徒自身もそれが当たり前と思えるようになってほしいものです。間違わないでほしいのは、自己主張だけをすることではありません。

ここで考えないといけないことは国民性です。日本人はおとなしく、1人目立つことがよくないという考え方を大多数の人々が持っています。それはおしとやかでよいというのは正しいし、協調性を重んじている、他人にあわせることを良しとしています。それは美德であり、立派な人間の態度と言えるでしょう。日本ではこれからの課題は、そういう状況を維持しつつ、自分をいかに表現するか？ということにシフトしていかなければならないのでしょうか！

国民性をよく表現している表現を紹介します。それはタイタニック号が沈没する時、言われたことだと伝わっています。その時船では、救命ボートが足りなかった、まず女性と子どもを優先的に避難させようとした。その時、男の人も逃げたいから次々とやってくる。そこで、どうやってそういう男性を思いとどらせたか？ 国ごとに表現を変えて男の人を止めたそうです。イギリス人に、あなた方は紳士ですので女性におゆずりください。アメリカ人に、こうすることであなたはヒーローになれます。フランス、イタリア人に、向こうに美味しいワインとチーズがあります。最後の祝宴を祝いましょう。ドイツ人にこれは法律で決まっています。では、日本人には、皆がそうしています。勿論後世の作り話でしょうが、とても的を得ていると思いませんか？オーストラリア人はどうするのでしょうか？



*Fort Street High School 正門にて。(左)
Sydney の伝統校。たくさんの有力な人材を輩出しています。1日だけでしたが、Buddy(パティ: 同行してくれるシドニーでの生徒)の時間割と一緒にしました。

*Huonville High School にて (右)
本校にも訪問した Buddy が通っている Tasmania の学校。週末なども入れて3日間生活を共にしました。2校でオーストラリアの学校生活を体験しました。



*会議の様子 (下右)

シドニーに到着しホテルでこれからの打ち合わせを始めるところです。

*オーストラリアの世界遺産の一つに行き、その誇る自然を体験している青葉台中の生徒 (in Blue Mountains) (下左)



28日の文化発表会で訪問した8人からのオーストラリアでのプログラムの紹介が予定されています。

荒川区の原中学校の生徒8人と一緒にきましたが、全員が【自分の意見を持ち、きちんと表現することが大切だ】という実感をもったようです。異文化を体験し、自分たちの良さをも再認識したようでアイデンティティの形成にも役立ったようです。

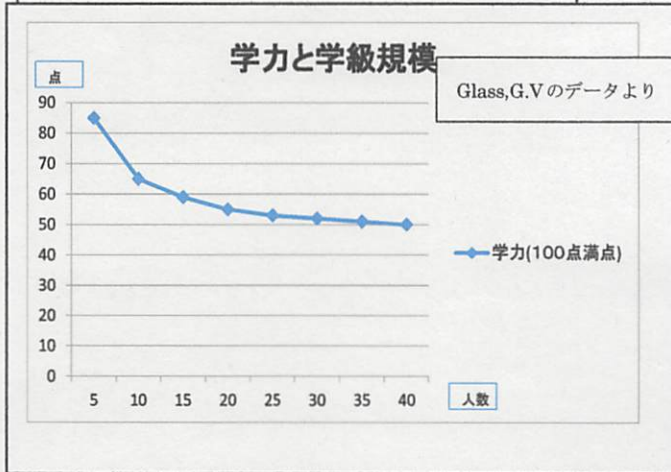
次年度以降もこういう体験を継続できるといいなと考えますが、その仕組み作りは大変難しいです。いい知恵はないでしょうか？

○このコーナーではいろんな数字(データ)を記載、その数字を見て考えていただきたいのです。

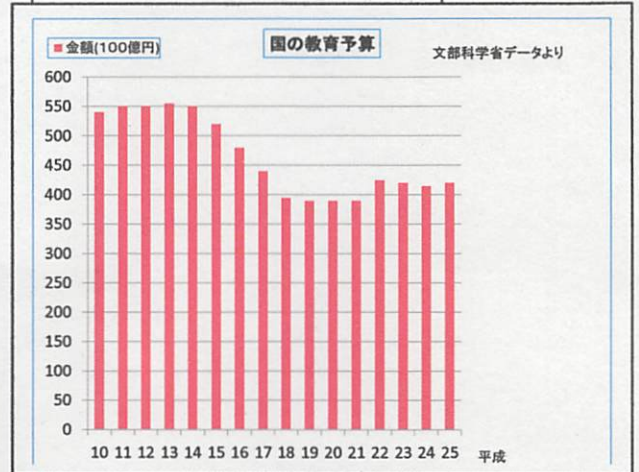
さーどうしましょうか？

このコーナーは、読み方によれば、日本の悪さ加減をピックアップして、文句を言っているように見える場合があるかもしれません。これは否定しませんが、今の日本の、そして横浜の現状を嘆いてばかりいるのではなく、データを示して、現在もしくは今後の議論のネタにしてもらいたい。そして改善していくための火元になりたいと思って記載しています。今月は国の予算とアメリカで行った実験?調査?のデータから、悪さ加減を考えてみましょう。文部科学省、財務省のデータなどを示します。日本の1学級の生徒定数について、果たしてこのままで良いのか？教育予算が下がっていること、少人数学級について考えてみましょう。

学力と学級規模の関係(グラス・スミス曲線) 図1



日本の教育予算の変遷 図2



40人対35人学級における各種比率のトレンド

	40人学級					35人学級		判定		%
	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	18-22の平均	23-24の平均	
不登校	4.5	4.6	4.6	4.8	4.8	4.6	4.5	4.7	4.5	変化なしと判定
いじめ認知件数	10.7	11	11	11	9.5	9.6	12.8	10.6	11.2	
暴力行為	3.2	4	3.7	4.4	4.3	3.9	4.7	3.9	4.3	

先月1クラスの生徒の構成人員が40人は多い！ということ、文科省もきちんと世界の状況としてつかんでいます、と報告しました。そして結構有名なアメリカでの調査、実験からわかる様に(図1)、少人数の学級での指導が学力に何らかの関連がありその変曲点が20人であり、それを基にアメリカは1クラス20人以下にこだわっているようです。しかし、日本では図3のように35人に基準値を変えてみたが、この表に書いた3つの部分の比率が変わらなかった。有意差なしと判定し、また財務省が40人学級に戻そうとした経緯は記憶に新しいと思います。教育予算の件(図2)は、景気の問題がありますのでわがままは言っておられないですが、ここ15年で20%減少しているようです。これからの未来を作る教育費は決して減らしてはいけません。高齢者大国になる日本を真に変革して支えていく人材の育成をすることが重要なことは誰もが認識しているのに。国民の声をあげて、教育体制の変革を行いたいものです。そして現在の子どもたちをストリートスマートの力を持った人材に育てあげたいものです。

○3年生ディベート授業が行なわれました。

オーストラリアでの授業を上にも書きましたが、本校でもフルタイムではないけど、国語の時間に各クラス5時間ずつ、ディベートの授業として、生徒たち自身が授業中に仲間たちと考え、調査し、発表し、議論し合い、結論を出すというプロセスを勉強しています。このディベートは、阿部満先生、漆山浩一先生に代々貴重なご指導をいただいています。1, 2, 3年と連続して本校では来ていただいております。感謝いたします。今年の3年生のテーマは、日本は「積極的安楽死を認めるべきである」「裁判員制度を廃止すべきである」「憲法96条を改正すべきである」「死刑制度を廃止すべきである」でした。このような大人もなかなか判断して議論しにくいテーマを堂々と語り合っていました。頼もしいと率直に思いました。まさしく、ストリートスマートの必須の素養をこのプロセスで学んでいます。これから騒がしく語られることになるであろうアクティブラーニングも先取りしていると思えました。また、本校では、他の教科においても、生徒たちが意見を述べあえるチャンスの多い授業を展開しています。これにより、各人の知識の増強ばかりでなく日常から考える力も身につける努力を行っていますので、オーストラリアでの授業に通じるものを感じています。

○ 個別支援学級、愛川ふれあいの村宿泊学習が実施されました！

青葉区内の中学校の個別支援学級の合同宿泊学習会が、9月10、11日に開催されました。今年も青葉区の11校の生徒たちが一堂に会して、仲間たちと協力して自主的な生活をするを狙いに実施されました。本校からも元気に参加してきました。まず、相模川ふれあい科学館で水族館を見学し、ふれあいの村では、夜にキャンドルファイヤをはじめとした夜のレクレーションを楽しみ、2日目には、台風通過で天気そのものは持ち直しましたが、大雨の後、土がぬかるんでいたりしており、活動を少し縮小したりしましたが、スポーツ大会などで盛り上がりました。参加者皆でよい汗を流しました。仲間と一緒に、共に協力して楽しみました。

○ 9月24日体育祭が行われました。雷神・風神の戦いは雷神の勝利！

予定の18日は前日からの荒れた天気が回復せず、雷まで鳴り、延期せざるをえなくなり(5日間のシルバーウィークによるブランクを作りたくなかったのですが)、延期しました。そのおかげで、24日当日は暑くもない、寒くもない天候で実施できました。参加者全員が5日間のブランクを感じさせないほどの状況を形成し、集中力を発揮して、活動を行いました。特に各クラスが、力を入れてきた大縄跳びは結果として、今までの歴代最高記録を塗り替えるほどの力の入れ方で、仲間との結集力の大きさを見せつける成果が出ました。その結果は173回でした。各学年とも(全クラスではないが)一つの目安の100回をクリアしていたこともうれしいことでした。係の人たちの働きぶりもしっかりしていて、メリハリのある体育祭になったと思います。全体を通して随所に、協調性の良さや集中力の良さが見受けられ、とても気持ちの良いものとなりました。ありがとうございます。そしてこのままの状態、文化発表会、合唱コンクールに取り組み、大成功を導きましょう。乞う期待！

○ PTA主催の高校説明会が9月30日に開催されました。

今年2度目になる高校説明会がPTAの主催で開催され、多くの保護者の方の参加を得て好評のうちに終わりました。横浜平沼高校、元石川高校、明治大学付属中野八王子高校、法政大学第2高校にお越しいただき20分ごとに説明をいただきました。各校とも独自の工夫、校風の説明がなされていました。しかし、どの高校にも共通していた部分は、自主的に考え、課題を見つけそれを独力で解決していくことが、グローバル化が進む世の中では、一番要求される力であるため、それぞれの取り組み方の説明が印象的でした。これは、4月から言っています、ストリートスマートの力と同じことです。再認識していただきたいと思いました。自分のやりたいこと、進学したい学校は良く調べて、自分の目でしっかり見て確かめて、選択してほしいともなっていました。ご家庭でも話題に取り上げてください、自分のことは人任せにしないで、しっかり調べ、自分の目で見るようにしてください。

* 部活動などで頑張る生徒たち(敬称略)

今月は特に表彰状をお渡しする機会がなく特に部活動の結果報告はありません。次月をお楽しみに。

今年の体育活動優秀生徒は次の2人に決まりました。市の総合体育大会の閉会式に他の部活動の代表生徒と共に参加します。

◎ 体育活動優秀生徒

3-3 佐野 裕(正しくは、示へんに右)生 滝川真子

* 生徒会の活動

*体育祭が終了し、ついで行われる、文化発表会、合唱コンクールに向け心をひとつに、結集し進めています。

体育祭のスローガン: 闘志なき者は去れ~30回目の本気モード~

このスローガンは達成できたでしょうか?皆さんで振り返ってください。

文化発表会のスローガン: 瞬彩~この瞬間、全てを輝かせ~

素晴らしい歌声、素晴らしい発表会を実現してください。楽しみにしています。

*選挙管理委員会の活動が佳境に達しています。8月28日に公示がなされ、新生徒会の準備が始まっています。活動重点テーマはここ数年取組んできている「無効票ゼロ~公平な選挙の実現」です。真剣に考えて自分たちの代表を選びましょう。登校時、正門いおける候補者のお願い、昼休み政見放送などが行われています。よく理解して選んでください。

*雨で実施ができていなかった本部企画のドッチビーが9月28、29日昼休み行われ、盛り上がりました。決勝では3年1組が勝利を収めました。おめでとうございます。

*PTA、部活動振興会の活動 スローガン: 青中に行こう!知ろう!楽しもう!子どもの笑顔のために!

PTA: 2学期の学校の1つ目の行事、体育祭。雨で順延しましたが、皆さんの多大なご協力を頂戴し、有意義に終了しました。誠にありがとうございました。PTA競技の玉入れも楽しくできました。ありがとうございました。引き続き、文化発表会、合唱コンクール、マラソン大会、講習会等次々と行事があります。各種活動がより有意義になるようにみんなで力をあわせて努力していきましょう!

上にも書きましたようにPTA主催高校説明会もおこなわれました。

部活動振興会: 体育祭の部活動行進等で大変なご協力を得ました。誠にありがとうございました。2学期の新チームによる部の活動が本格化します。今まで以上によりしくお願いいたします。